令和８年度　第２回認知症施策検討委員会次第

日時　令和８年１０月２６日（月）
　　１３：３０～１５：３０
会場　高梁市３階大会議室１

１　開　　会
あいさつ　河本委員長
１０／１９認知症介護家族交流会に参加した。認知症当事者の三宅さんの話を聞き、当事者が声を出しやすい世の中であることが認知症になっても住みやすい町に繋がること、当事者の声を聴くことが大切であることを実感した。

２　協議事項　（詳細は別添資料のとおり）
１）前回検討事項について
「のうＫｎｏｗ」の活用について
【質問】前回の委員会時に、自身のグループではマイナスな感想が多かったが、当日参加された方はどうであったか？
→１名分かりにくかったと言われた方がいたが、生活習慣病を見直すきっかけになった等全体的に前向きな意見が多かった。

２）認知症啓発月間報告について
【質問】来場者数は前年度と比較すると変化があるか？
→概ね同程度。展示を見てロバ隊長にシールを貼るまでに至らない人もいると思うので大体の人数になる。物忘れチェックも昨年と概ね同程度であったが、呼び込みをしなくても「私もしたい」と来られた印象あり。数年前は声掛けするも拒否的な印象であった。

３）第１０期介護保険事業計画
本市としても国の方針に基づき、本人の声を施策に反映させたいと考えているが、本人の声をどこにどのように繋ぐか、認知症当事者も安心して過ごせるにはどのようなことが必要であるか、本人や家族が相談しやすい・利用しやすい体制づくりにはどのような方法があるか等ご意見いただきたい。

【質問】第９期介護保険事業計画と比較して変更点はあるか？「⑤予防」の項目内に認知症だけでなく、生活習慣病や介護予防が追加されているようには思うが…。
→今回の計画の大きな方向性として「本人参画」がある。本人が地域社会と繋がりながら、認知症になっても住み慣れた地域で生活が継続できるような計画になるよう①認知症に関する理解の増進、②認知症バリアフリーの推進、③社会参加の機会の確保へ反映させた内容にしている。

【質問】認知症サポーター養成講座の開催数・受講者数が令和９年以降同じ数字となっているが、正しいか？
→まだ検討段階である。あわせて認知症カフェ設置数・参加人数についても実現に向け検討したうえで記載予定。

【事務局より】第１０期介護保険事業計画について、第９期介護保険事業計画と見比べていただき、ご意見等あれば１１／１３までにお近くの市民センターや地域局等に意見書の提出をお願いしたい。

４）グループワーク

①今後のオレンジガーデニング

【１Ｇ】

・オレンジガーデニングプロジェクト⇒花にこだわらなくてもいいのではないか
・オレンジ色＝認知症理解・支援であることを浸透させる
・のぼりやポロシャツ、ポスターもオレンジにする。オレンジ色でパレードを行う

【２Ｇ】

・公用車をオレンジ色にラッピングする
・チームオレンジの活動の一環として、花を植え、種を採取・地域に声掛けしながら配布し、普及啓発を行う
・吉備ケーブルやインスタ等のＳＮＳも用いて広報する
・各地域市民センターに協力依頼し、花を植え、採取した種を窓口においていただく
・種を配布する際に、説明文をつけておく。キャッチコピー「来年植えてぇ～」
・ロバ隊長とさんじゅーろーでコラボして、啓発する

②認知症啓発ポロシャツについて

【１Ｇ】

○生地などデザイン
・生地の色がオレンジのとワンポイントだけオレンジを入れる２パターン用意する
・腕章のようにオレンジの輪を入れる
・「認知症」の言葉が入らない方がいいかも

○文言
・誰もが自分らしく
・その人らしく
・自分らしく生きる
・絆
・いくつになっても自分らしく生きる
・共に自分らしく
・共に笑顔で
・自分らしさは忘れずに

２Ｇ

○生地などデザイン
・生地は黒や紺など濃い色
・さんじゅーろーとロバ隊長のコラボ
・ロバ隊長が認知症サポーターキャラバンの象徴なので必要ではないか

○文言
・認知症に代わる言葉が出なかった。
・ポロシャツの意図を知ってもらうには「認知症」の文言が必要ではないか

３　その他

・１０／１９　認知症介護家族交流会について報告

認知症と家族の会岡山県支部、備中県民局と共催で、１部：川崎医科大学認知症学　和田教授の講話、２部：認知症当事者　三宅氏の講話、３部：座談会を実施した。普段から認知症に携わる地域住民５１名の参加であった。

和田教授からは、新しい認知症観を踏まえながら特に治療薬について教えていただいた。三宅氏からは「周りの理解があるから安心して物を置き忘れることができる」との発言もあり、そのような地域づくりが必要と感じた。また、周りに対して「さっきも○○した」との言い方をされると落ち込み次の言葉が出なくなる、２－３歳の子供に言うくらい端的に、ゆっくり話すように気を付けてほしいとの発言もあった。座談会では、講話の感想や今後の希望等自由に話されていた。

事業担当としても、認知症本人の言葉を聞けるのは大変貴重で、今後もこのような機会が必要と感じている

・１１／８医療・介護市民公開講座について
今年度はＡＣＰに関する寸劇、高梁消防による救急現場から見たＡＣＰ、高梁中央病院の取組紹介予定

・備中町平川　グループホームびっちゅうについて
職員の高齢化・確保できない、利用者の定員を満たないことから９月末で休止。
利用者は１０月から同法人グループホーム高梁３号館（元小規模多機能型居宅介護）受入れ

・第１０期介護保険事業計画に関して、気づいた点・ご意見の依頼

４　閉　　会　　（副委員長不在のため、あいさつは省略）

次回：第３回　認知症施策検討委員会　令和９年２月８日（月）１３：３０～